



p 4

問題1 けなみなんかも、() () しているし。

() () の中にどのことばがはいりますか。

- ① さげすむ
- ② じやじや
- ③ するする
- ④ すいすい

指導ポイント

この問題をきっかけに、くりかえす副詞を辞書で探させるのもよいと思います。そのとき、例文の意味を確認させるとさらによいでしょう。

p 5

問題2 じつとかまえて、リヨウのようすをうかがっています。

このとき、のらねこはどのような気持ちだと思えますか。

- ① リヨウがえさをくれるのかな
- ② リヨウがかわいがってくれるのかな
- ③ リヨウがいじめるのかな
- ④ リヨウがこわがっているのかな

指導ポイント

「あれ。ぼく、きみをいじめたりしないよ」というリヨウの言葉を使って、のらねこの気持ちを表しています。

その人の気持ちを表す表現は、その人の言動だけでなく、自然描写に現れることもありますし、このように相手の言葉を借りて表現することもあります。

p 6

問題3 「わかりましたよ。きみのようすをみれば、だれだって」とリヨウはがっかりしながらいます。

リヨウは何がわかったのでしょうか。

- ① のらねこがおこっていること
- ② のらねこがこわがっていること
- ③ のらねこがきんちょうしている
- ④ のらねこがまんぞくしていること

指導ポイント

「おこるは」だれかのせいで悪い結果になったときのきもちです。

のらねこに悪い結果はまだ起こってはいません。

「こわい」は、悪い結果を予想したときの気持ちです。

のらねこがいじめられていなくても、いじめられるのではないかと思ったときは「わい」という気持ちにはなりません。

「きんちゆうする」は慣れないことや失敗を恐れているときの気持ちです。

のらねこが何かをしゆうとしているわけではありません。

「まんぞく」は思い通りの結果になったときの気持ちです。

のらねこは何かを望んでいたわけではありません。

p 8

問題4 「ごまかすな。じゃあいい。もうあっちへいけ。かわいがってなんかくれないか」
「ここ」

リヨウは、もじもじします。

このときのリヨウの気持ちはどれですか。

- ① まよっている
- ② あわてている
- ③ おどろいている
- ④ おびえている

指導ポイント

「まよっている」「は、いくつかの考えのうち、どれにするかを考えている」とです。
のらねこは、ポケットの中にあるものを見せるのがよいのか、それとも、見せないのがよいのかと考えているのです。

p 9

問題5 「でも、これ、うちのねこなのだから」とリヨウが言ったとき、のらねこが「ああ、そう」といったのはなぜですか。

- ① かんづめをあきらめたから
- ② かんづめがきらいだったから
- ③ よそのものをよこどりはしたくなかったから
- ④ かんづめが食べたいということを知られなくなかったから

指導ポイント

「ああ、そう」とうそをつけない返事とは逆に、のらねこは、じつとかんづめをみつめながらいつているところから、内心ではかんづめが食べたいという気持ちを表しています。

p 10

問題6 のらねこは、なぜかんづめが食べたかったのでしょうか。

- ① おなかがすいていたから
- ② どんなあじがするのかわりたかったから
- ③ リヨウにかわいがられたかったから
- ④ リヨウのねこがたべるのをへらしたかったから

指導ポイント

「たったひとくちでいいんだよ」とのらねこがいつているので味見がしたかったということがわかります。

とてもおながすいっている、というふうではありませんと描写しています。

また、「さあ、よし。おいしかった。リョウはいいこだということがわかった。それではいいよ、かわいがられてやるとするか」ということから、少し食べただけでも味見はできたので十分だという気持ちが表れています。

そして、「かわいがられてやるか」ということは、それ自体が目的ではなく食べさせてもらったことに対する対価ということになります。

この対価関係の感覚をどのようにして身につけさせるかも重要な点です。

Pr1

問題7「よし。それじゃあ、そのくさのうえに、ひとくちぶんだけおけ」

「あれ。ほくのてのひらから、たべてくれるんではないの」

このときのリョウの気持ちはどれですか。

- ① 楽しみにする
- ② がっかりする
- ③ ゆるす
- ④ かわいそうに思う

指導ポイント

「楽しみにする」はこれから起こる良い事を思った時の気持ちです。

ですから、のらねこがリョウのてのひらから、たべてくれることを想像した時の気持ちになります。

「がっかりする」は予想した良い結果にならなかったときの気持ちです。

ですから、のらねこがリョウのてのひらから、食べてくれなかったときの気持ちになります。

「ゆるす」は、相手が悪い事をしたときでも、それを受け入れる相手に対する気持ちです。

ですから、「そんなら、そうしなよ。……」といっているときは、のらねこを許す気持ちになっています。

「かわいそうに思う」は、具体的な言動にたいする気持ちではなく、相手の置かれた状況や精神状態などに対するいたわりの気持ちです。

ですから、「……、きのすむようにおしよ」といっているときは、人を信用できないような性格になったのらねこに対するあわれみの気持ちになっています。

このように、人の気持ちにも流れがあります。その流れを分解して読み取ることを身につけさせることがコミュニケーション力を養つことになります。そのためにも、小中学生のときには先ず熟読を徹底すべきだと思えます。熟読の養成は同じ物語を何回も読ませることです。読んだ本の冊数を競い合わせるより、同じ物語を何回読んだかを競い合わせる方が熟読力は身に着くと思えます。

問題8 「あ、だめ。それいじょう、ちかづくな。ちかづくなんでずうずうしい。ひっかくぞ」

「ずうずうしい」と感じるのはどんなときですか。

- ① ともだちが本をかしてくれなかつたとき
- ② ともだちが本をかしてくれなかつたとき
- ③ 本をかしたともだちが、おれいをいっただとき
- ④ 本をかしたともだちが、おれいをいわなかつたとき

指導ポイント

「ずうずうしい」は相手に対する評価ですが、その評価基準は、評価した人の気持ちとどうかがいえます。

このような場面を用いて、人に対する評価には客観的評価と主観的評価があることを教えておくことも必要なのではないでしょうか。

問題9 「どうして。ねえ、のらねこ」

リョウは、あきれれています。

「あきれれる」のはどんなときですか。

- ① ともだちが算数のテストで100点をとったとき
- ② ともだちがインフルエンザで一週間学校を休んだとき
- ③ ともだちが顔に色をぬって学校に来た
- ④ ともだちがつまずきけがをした

指導ポイント

「あきれれる」というのは、思いがけない出来事やひどい事が起こったとき、びっくりすることです。

ですから、その人によって予想力の範囲も異なりますし、相手の性格を知っているかどうかなどの情報量も異なりますので、一概に「あきれれる」というわけではありません。せん。

いつもひょうきんなことをして周りをわらわせるのが好きな子であれば、顔にペイントして来たとしても「あきれれる」のではなく、「面白がる」と思います。

つまり、「あきれれる」は相手に対する評価を含んだ気持ちですが、「面白い」は相手に対する評価は含んでいません。自分の予想をこえたことがおこり、そのことが自分に害を与えるものでなかつたときの驚きなのです。

問題10 「え」

「え」

ひとりど一びきはかおをみあわせます。ははーん。そうだったのか。がてんがいったリョウはいいいます。

リヨウががてんがいったことは何ですか。

- ① のらねこが、「かわいがられてやるか」といったこと
- ② のらねこが、「ちかづくなんてずうずうしい」といったこと
- ③ のらねこが、「ひっかくぞ」といったこと
- ④ のらねこが、「そのへんでかわいがれ」といったこと

指導ポイント

合点は承知することですが、単に情報を受けとって知識としたというのではなく、原因と結果との筋道がわからなかった状態が解消され、その道筋がわかったときの気持ちです。

「かわいがる」ということばから連想する事柄が、リヨウとのらねこでは異なっていたということです。

ですから、リヨウとのらねこはお互い自分が連想した事柄で判断していたので「ミニケーションがとれなかったということ」です。

そして、リヨウがのらねこが「かわいがる」から連想する事柄は、自分が連想した事柄と異なるということに気づいたとき、はじめて「そのへんでかわいがれ」という意味がわかったのです。

D15

問題11 「よせ。それいじょうちかづくな」

リヨウはたちどまります。

「こわい。それいじょうちかづかれると、にげますか、とびかかるかもしれない」

のらねこは何をこわがっているのでしょうか。

- ① 自分がリヨウにとびかかること
- ② リヨウがにげること
- ③ リヨウがとびかかること
- ④ リヨウがひっかくこと

指導ポイント

のらねこは、リヨウはいいのだと評価しています。そして、「かわいがる」ということが「めいてにさわってあげたり、だいてあげたり、なでてあげたりする」ということも理解しています。

しかし、のらねこは、理性的理解と本能的反射行動は別だということを感じ取り、自分が本能的行動をとることを、こわがっていると思われまます。

D16

問題12 「じゃあいい。そこから、まえあしだけのばして。ほくもまえあしだけのばす」なぜリヨウは「ほくも手だけのばす」といわないで「ほくもまえあしだけのばす」といっているのですか。

- ① ほんとうは「ほくも手だけのばす」というつもりだったが、のらねこを見ているうちに自分もねこになってしまった。

② のらねごとおなじ言い方にしてあんしんさせようとした。

③ リヨウの手は強かったのでまえあしといったほうがよいとおもったから

④ はらばいになったので「手」より「まえあし」と言った方がよいと思ったから

指導ポイント

のらねごは、リヨウがどうするのかこわがっているので、その不安な気持ちを和らげるために、のらねごと同じ目線にし、のらねごに対するのと同じように「ほくもまえあしだけのぼす」と表現したのです。

相手に自分の気持ちを伝えるためには相手わかりやすい表現を用いることが大切だということをお教えしておく必要があります。

p19

問題13 リヨウはよろこんで、ねこといっしょに、はしって行ってしまいます。やねのうえから、そのすがたを、のらねごがみています。

このとき、のらねごはどんなきもちでしょう。

- ① うれしい
- ② ほっとする
- ③ はずかしい
- ④ うらやましい

指導ポイント

国語読解には本来正解はありません。一般的思考連想を正解としているにすぎません。独特の感性と思考習慣をもっている子が導いた答えもその子にとっては正解なのです。ですから、国語読解では間違ったところから教育的指導が始まるということもよいのです。つまり、自分の連想や思考習慣が一般的ではないという自覚を持たせること、つまり、異なる思考習慣を持っている人の方が多いということをお知らせする必要があります。

また、正解であった子に対しても異なった答えを導き人が少なからずいるということをお知らせしておくことも必要なことだと思います。

ですから、どの肢も答えとなる可能性があるのでこのような問題は一斉授業で扱い色々な考え方に触れさせることもよいのではないかと思います。

「うれしい」は自分にとってよいことがおきたときの気持ちです。

のらねごがリヨウという信頼できる友ができたという気持ちになっていれば「うれい」ということになります。

「ほっとする」は自分にとって悪い結果にならなかったときの気持ちです。

のらねごが、リヨウにいじめられるという危険性がなくなったというように思っているれば「ほっとする」ということになります。

「はずかしい」は他と比べて自分が劣っているときの気持ちです。

のらねごが、飼いのネコと比べ自分の置かれた状況が劣っているということをおもっているのであれば「はずかしい」ということになります。

「うらやましい」は、他と比べ自分の置かれた状況が劣っていると感じるだけでなく

自分もそのような状況になりたいときの気持ちです。
のらねごが、自分もだれかに飼われ安心して暮らせることを望んだとすれば、「いいじゃない」となるんじゃない。